

石高神社時報

第三十四号

発行日 平成二十七年十二月一日
発行者 石高神社 宮司 高原 章兆
発行所 岡山市中区円山八五三
電話 〇八六一二七七一九〇〇三

戦後七十年 御英霊の鎮魂と平和を祈る

今年には戦後七十年の節目に当たる年でした。神社界では、護国神社において「みたま祭」に合わせて記念大会が開かれました。

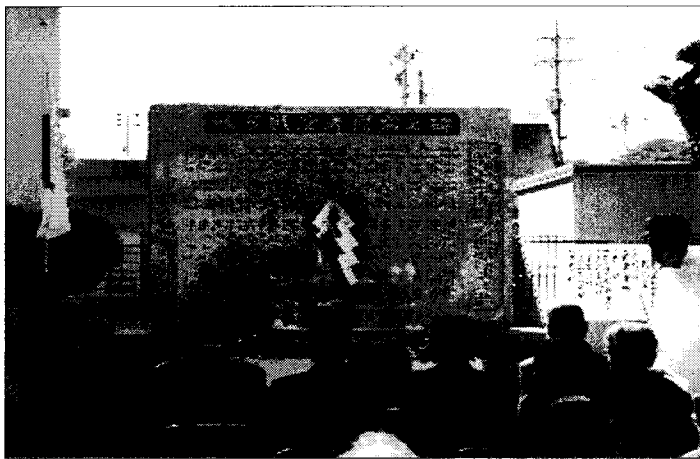
幡多地区では、幡多戦没者慰霊之碑の前で慰霊祭が執り行われ、祭主を務めさせていただきました。慰霊碑は、国の為に斃れた方々の鎮魂と平和を願って平成二十年に建立されたもので、五十五柱の英霊の御名が刻まれています。

富山地区でも戦後五十年までは、毎年戦没者慰霊祭が行われ、吉備津岡辛木神社宮司と共にご奉仕させていただきました。今では御遺族も高齢になられ、慰霊祭への出席も次第に少なくなってきました。中止になっていきます。

七十年も経過しますと、戦争を知らないのは子供達だけではなく、シルバー世代もほとんど知らないという状況になってきています。尊い命を国家に捧げられ、今日

の平和の礎となられた犠牲の事実も忘れ去られようとしています。日頃あまり意識することはありませんが、戦地に赴かれた御英霊に感謝の誠を捧げるとともに後世に伝えていくことが今の繁栄を享受している私たちの務めではないかと思えます。

奇しくも今年、国際平和支援法という新しい法律の制定を始め安全保障関連法が可決されましたが、戦の無い平和を祈るばかりです。



幡多戦没者慰霊祭 平成27年10月25日

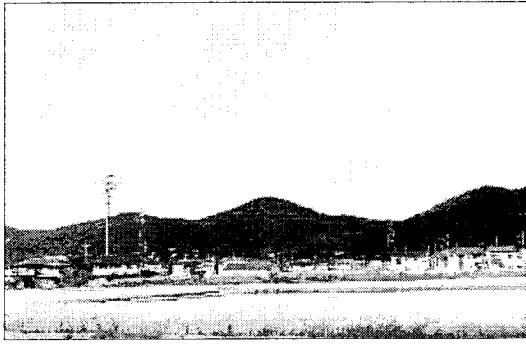
石高神社の旧社地

石高神社は、はじめから現在の場所にあったわけではなく、江戸時代の始めの頃に、今の場所に遷ってきた。社伝には、次のように伝えられています。

「今の宮山より北の方にある高倉山の嶺上に大名持命を祭っていた石高神社があり、西の方の字岩坪に須勢理姫命を祭っていた神社があった。両社を今の宮山に移し、合わせて八幡宮と称していたのを、明治四年に旧号の石高神社と改称した。」

高倉山というのは、現在の地図には石鉄山と記載されている山のことです。嶺上は平らになっており、現在も磐座（いわくら）と思われる大きな岩がたくさんあります。

一方字岩坪という地名が、現在の円山嶽町内東部にあります。山の中腹に大きめの岩と五輪塔があり、この場所が旧社地と推定されます。現在は宅地と畑になっています。



南から見た高倉山 写真中央

Q&A ⑤ 包みの書き方

質問 御祈願や地鎮祭のお礼の祝儀袋の表書きはどう書けばいいですか。

回答 包みには、「初穂料」「玉串料」「御神前」「御供」「御神料」などの色々な書き方があります。どれを書いても失礼にはなりません。神社でのご祈禱や地鎮祭のお礼の際には「初穂料」と書くのが一般的です。「玉串料」という書き方は、神道式の葬祭も含めて神社関係のほぼすべての状況で使える万能的な表書きです。お礼参りの際には「御礼」、地鎮祭のような神社外での儀式では、「祭祀料」などの書き方もあります。なお、祝儀袋（紅白の水引）の裏側は、下側の折り返しが上に重なるように折ります。

隨身門修理メモ 屋根部分

隨身門の台輪から上の屋根部分は、ほとんど新しい材料で修復されました。すなわち、三角屋根の一番高いところに取り付けられる骨組みの棟木、棟木と平行な桁三本全部、垂木、化粧板などが新しい材料になりました。特に垂木は、間間に入れて数を二倍にしました。台輪とは、社寺建築の柱上を結び、組物を支える厚板状の横木

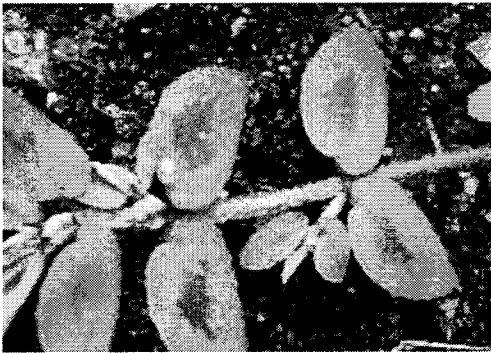
のことです。

また、何度も修理した跡があり、元は棟木がもっと高い位置にあった形跡があるということでした。このことから、薄い木片を重ねて敷き詰めた柿（こけら）葺きや、
（檜皮（ひわだ）葺きであった可能性も推測できます。本殿も末社稲荷神社も最近の修理前までは檜皮葺きでしたので、十分考えられることです。

境内の生物⑧ 雑草 コニシキソウ

夏になると、境内の日当たりが良い場所にコニシキソウが次々に生えてきて困っています。北アメリカ原産の外来種で、三〇年ほど前から目立つようになりました。

日当たりが悪いと茎は斜めに立つようですが、ふつうは地面を這って広がるので、小さいものは見つけにくいです。葉は濁った緑色で、上面に黒斑があり、傷つけると乳液を出すのが特徴です。七月十月にかけて葉腋に暗褐色の花をつけますが、秋に発生した個



体は小さいままでも結実するのでなかなか根絶やしにできません。また、蟻と共生関係にあるらしく、蟻が種子を運ぶそうので、ますます厄介です。

石高神社のおもな行事

◎歳旦祭および初詣

一月一日午前零時より歳旦祭、その後一時ごろまで新年の家内安全祈禱を行います。また、三が日は午前九時ごろから夕方五時ごろまで新年の家内安全祈禱や厄払いを行っています。ご家族お揃いでの御参りをお待ちしています。

◎どんど祭および古神札焼却祭

正月のお飾りのほか古い御神札の焼却も行います。なお、ビニール、プラスチック、金属類はなるべくはずしてご持参ください。当日は、はずす作業をした後に焼

平成28年の
どんどまつり

1月16日（土）
午前10時から
11時半頃まで

ぜんざいの接
待もあります。

却します。また、例年通りぜんざいを用意する予定です。

◎厄年と年祝いの祓え

厄年には、その年に災いが起こらないように、神社などでお祓いを受けます。祝年には、長寿を家族でお祝いし、感謝と喜びを神さまに奉告します。一般には元日から節分のころまでにお参りするものとされています。

平成二十八年のおもな厄年と祝い年を一覧表にしましたので参考にしてください。祝い年は男女ともに同じです。また、特に男四十二歳と女三十三歳は大厄とされ、

平成28年の厄年祝年

厄年祝年	生まれた年
女19歳	平成10年
男25歳	平成4年
女33歳	昭和59年
男42歳	昭和50年
還暦祝	昭和31年
古希祝	昭和22年
喜寿祝	昭和15年
傘寿祝	昭和12年
米寿祝	昭和4年
卒寿祝	昭和2年
白寿祝	大正7年

前後には、前厄と後厄があります。

◎夏祭り、秋祭り

夏祭りの輪くぐりは、毎年七月三十一日の晩です。また、夜店が出る秋祭りの氏子参りの日は、毎年十月三日の晩です。

◎その他七五三、初宮参り、当病平癒祈願、自動車清祓、家祈祷、地鎮祭、各種清め祓い、神葬祭など随時受け賜っております。お電話でご相談ください。

石高神社への道案内

当社の南側と西側には、石段を上がる参道があります。自動車でお参りの場合は、宮山の東側を山に沿って進むと北側から山に上る参道があります。少し上った左側の空き地または右にもつ少し上がった本殿の裏に駐車するのが便利です。さらに南に進むことができませんが、行き止まりになります。正月の昼間には混雑が予想されます。帰る方を優先に譲り合いを願います。

また、宮山の東北のカーブは見通しが悪いのでお気をつけください。

